

1

1 流氷

2 飲む

3 祭り

4 空港

5 薬

6 写真

2

1 I 給食を食べる

II エ

2 給食なし

3 ウ

4 I ウ
II ア
III エ

(4 完 答)

5 夏

6 A

お

B

ぐ

C

い

7

ウ

3

8 (記述題)

9 となる

1 A こ

B

め

C

お

D

来

(D「縁」も可) (2 完 答)

2

I 小指
II 毒

3 I X 動
Y 民
下
物

II ウ

(3 I 完 答)

4 ジャガイモが強い。

(4 完 答)

5 I ウ
II イ
III ア

6 ジャガイモ

(5 完 答)

7 食料不足

8 I 2

II 1

2

8 食べるのがおそくなる

(同意可)

配 点	
1・2・3	各2点×13=26点
8	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

1

「流」の六画めと七画めを続けて書かないように気をつけよう。

2

「飲」のへんの部分を「食」のように書いてはいけない。

3 「然」と混同して、「祭」の右上の「又」を「犬」にしないように気をつけよう。

4 「港」の「己」を「巳」のようにしてはいけない。それぞれの字画の書き始めにも注意しよう。

5 「菓」の九画めから十二画めの点を打つ向きに注意しよう。

6 「真」の二画めと三画めを続けて、「ナ」のように書かないように一画一画をていねいに書こう。

2

I 線①より前に「ぼくはくおそい」「全校でもくおそい」という表現が出てきているので、答えを見つけるのは容易だっただろう。

II 線①の次の段落で、なぜ給食を食べるのがおそいのかをタカシ自身が考えている。「おいしさと食べるスピードは、ぼくのばあい関係ない。それより」とあるので「それより」以降を確認し、その内容がまとめられている選択肢を選びたい。

2 「もう②！」と言われたことに対して、「それは困る」「チキンライスや大好物のマカロニのクリーム煮が食べられないくなるのは大問題だ」とあることから、「チキンライスや食べられなくなる」をまとめた四字の表現をさがせばいいとわかる。直前に「こんど外見たら」とあるので「外を見る」に近い表現がまとめた四字近くにあるのではないかと考えてほしい。

3 直前の先生の発言から、何にいらついているかが読み取れるだろう。

4 それぞれの選択肢のことがどういった意味を持ち、どういった使われ方をするのかを確認しておこう。この問題に限ったことではなく、普段からことばに対して敏感になっていこう。よくわからなかったり知らなかったりしたことは、調べたり聞いたりしていき、ことばの知識を増やしていこう。

5 通読の時点で、「目がいたいくらいにまぶしい」「熱中症」といったことばから季節をイメージしておいてほしい。

6 4でも述べたとおり、ことばの知識をどんどん増やして行ってほしい。Bの「あぐら」は「あぐらをかく」で「楽な姿勢ですること」という意味のほかに「反省や努力をせず、満足していい気になる」という意味を表す。

7 給食を食べるのがおそくなる原因である「外を見る」ということが、男の子を助けることにつながったということから考えよう。エも良さそうに見えるかもしれないが、いつも給食を食べるのがおそいぼくに注意していることを校長先生や男の子の親に伝えなければ「注意しないようにたのまれる」ことはなく、「給食なし！ に対して」ジョークだとは思おう」とあるように、ぼくがほめられるべき場面でのようなことを伝えるような先生と考えるのは不自然だろう。

8 ぼくは給食中、つい外を見たり色々考えたりしてしまっただけだが、これまで注意されていたことが注意されなくなったことに対して考えてしまっているのである。考えることが増えてしまったぼくはどうなるだろうか。

9 本文中から一文ぬいたということは、そのせいで本文中に不自然な箇所が生まれた可能性があるということを知っておこう。同時に、ぬかれた一文のなかにこそ、もどすべきところにとどりつく手がかりがある可能性が高いことも知っておこう。「なぜだろうと考えてしまうのがいけないのだと思う」となると、この前二〇〇回を超えたぼくの「出番」とあるが、つながりが悪いことに通読時に気づいてほしい。◎の文中に「リフティング」とあることも手がかりになっただろう。

3

1 A「あちこち」は、色々な方向や場所を指すことばである。B「めぐる」は美しさを味わって感動することである。漢字では「愛でる」と書く。Cは直前の「拒否する農民には耳と鼻を切り落とす」という表現から考えよう。D「由来」はある物事がたどってきた筋道のことである。

2 線①をふくむ一文が「アンデスの人々は、こうした野生種にさらに手をかけて」となっているから、ここより前の部分から野生種の特徴をさがせば良いとわかる。野生種の特徴について書かれているのは、本文六文めから八文めまでなので、この「紫色のく食べられない。」の部分と◎の文とを照らし合わせながら考えよう。

3 I 十七世紀半ばまでヨーロッパでされていた見方を聞かれているので、線②の直前の段落からさがせば良い。(X)には「だれ」、(Y)には「何」にあたることばがある。

II 十七世紀半ばから出てきた見方を聞かれているので、線②の次の段落以降から考えよう。「ジャガイモがあればこの国を救うことができるでしょう」と提案された↓「ヨーロッパでは広く利用された」↓「アイルランドから北アメリカへ伝えられ一八〇〇年頃には裕福な人々も食べるようになり」という流れである。

4 飢饉のときの食料として「ジャガイモを提案した」ということは、ジャガイモが飢饉のときでも育つようなすぐれた性質を持っているということである。すぐれた性質に注目されはじめた十七世紀半ば頃について書かれた部分からさがそう。

5 (III)の直後の一文が「客のなかには」からはじまっているので、(III)には「宴会」ということばがある。Aか「夜会」ということばがあるウのどちらかがはいるが、(I)の直後の一文に「物珍しい植物」とあるので、(I)には「花」ということばがあるウがふさわしい。こちらにウを優先して入れよう。

6 線④をふくむ一文の「彼」と「貴下」は「パルマンティエ」を指しているから、パルマンティエが提案した食料を答えよう。

7 ◎の文の「から人々を救った」という表現から、()にはマイナスの状態を表すことばがある。線⑤に「十八世紀以降のヨーロッパ」とあるので、線②のあとの部分からさがそう。

8 I 本文の二行めから三行めに「ジャガイモの故郷を辿っていくと、南米のチリの山のなかに辿りつく」とあるので、「南米から」伝わったことがわかる。

II 本文後ろから五行めに「他方、(ジャガイモに)極端に依存したことによる悲劇があった」と書かれていた。以上